

「小・中学校及び特別支援学校における
各教科等の指導と自立活動の指導を関連させた授業づくりの充実」

～授業づくりシートⅠ・Ⅱ～

「特別支援教育に関する基本方針」（平成30年3月 北海道教育委員会）では、特別支援学級を新たに担当する教員や経験年数が少ない教員からの相談や研修などに係るサポート体制の強化が求められていることや、肢体不自由教育における各教科と自立活動の関連を図る指導など、多様な教育的ニーズに応えるための教員の指導力や専門性の向上が課題の一つであることが示されました。

このことを受け本研究では、肢体不自由教育の経験が浅い教員が、各教科と自立活動を関連させた授業づくりの参考となるよう、「授業づくりシートⅠ・Ⅱ」の作成に取り組みしました。

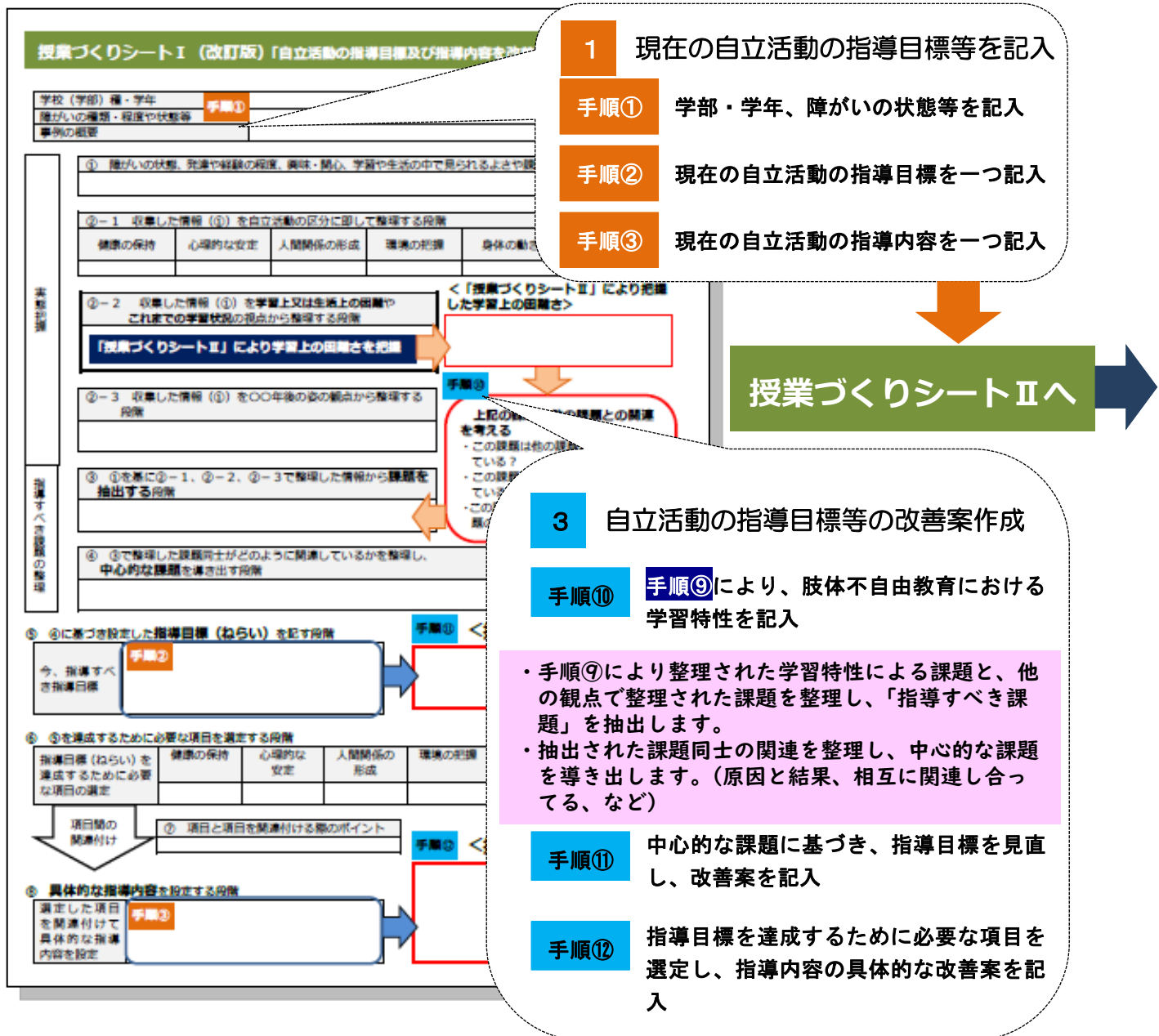
本シートⅠ・Ⅱを活用することにより、肢体不自由教育の経験が浅い教員においても、各教科等と自立活動の時間における指導を関連させた授業づくりに必要な指導目標及び指導内容を導き出すことができると考えます。ぜひ、活用願います。

授業づくりシートⅠ（改訂版）

本シートⅠは、対象児童生徒の「現在の自立活動の指導目標及び指導内容」を整理し、改善案を導き出すまでの流れを示したシートです。

本シートⅠと、次ページに示した「授業づくりシートⅡ」を合わせて使用することにより、学習上の困難さを明確にし、各教科等の指導と自立活動の指導を関連させた指導目標及び指導内容を導き出すことができます。

本シートは、特別支援学校教育要領・学習指導要領 自立活動編（平成30年3月）に示された「流れ図」を参考に作成していますので、実際の記入は、「流れ図（別記様式）」を御活用ください。



授業づくりシートⅡ

本シートⅡは、肢体不自由のある児童生徒の各教科における学習上の困難さと、肢体不自由教育における学習特性を結び付けることができるシートです。

本シートⅡによって明らかになった対象児童生徒の肢体不自由教育における学習特性を、他の課題との関連を考えながら自立活動の指導目標及び指導内容を導き出すことにより、各教科等の指導と自立活動の指導の関連性を明らかにすることができます。

授業づくりシートⅡ「肢体不自由のある児童生徒」

手順③ 教科名の記入

教科名

手順④ 教科における児童生徒の発達の段階

児童生徒の（ ）の学習状況（何学年相当か）	具体的な学習状況
<input type="checkbox"/> 当該学年の各教科の目標	・
<input type="checkbox"/> 当該学年より前の各学年の各教科の目標	
<input type="checkbox"/> 当該学年より前の学年の目標及びねらい	

手順⑤ 教科における児童生徒の学習上の困難 → **手順⑥ 項目** → **手順⑦ 学習特性**

児童生徒の（ ）の種がいによる学習上の困難	自立活動	肢体不自由教育
・	6 区分	生活経験の不足 社会・教員の困難 学習しディネス形成 態度・知識の発達 運動づくり
	27 項目	学習しディネス形成 運動づくり
・	6 区分	生活経験の不足 社会・教員の困難 学習しディネス形成 態度・知識の発達
	27 項目	運動づくり（ボクシング） 学習しディネス形成 運動づくり（ボクシング） 学習しディネス形成 運動づくり（ボクシング）
・	6 区分	生活経験の不足 社会・教員の困難 学習しディネス形成 態度・知識の発達
	27 項目	運動づくり（ボクシング） 学習しディネス形成 運動づくり（ボクシング） 学習しディネス形成 運動づくり（ボクシング）

手順⑧ 中心課題となる学習特性 ※手順⑦でチェックした■が多かった学習特性

2 教科における学習上の困難を整理

手順④ 教科を記入

手順⑤ 教科における児童生徒の発達の段階を記入

手順⑥ 教科における児童生徒の学習上の困難を記入

手順⑦ 困難に関連する自立活動の指導項目を選択

＜複数名で検討＞

手順⑧ 困難の背景にある要因を学習特性から検討

＜複数名で検討＞

手順⑨ 中心課題となる学習特性を選択

授業づくりシートⅠへ

※手順⑧の肢体不自由のある児童生徒の学習特性については、補助資料「チェックシート」を参照しながら記入します。

研究協力校

江別市立上江別小学校

研究協力者

北海道手稲養護学校教諭 渡 辺 麻 子

(作成時：江別市立上江別小学校教諭)

江別市立上江別小学校教諭 三 科 圭 美

作成者

北海道立特別支援教育センター肢体不自由・病弱教育室長 吉 田 奈穂子

十勝教育局教育支援課義務教育指導班特別支援教育スーパーバイザー 奥 田 裕 幸

(作成時：北海道立特別支援教育センター肢体不自由・病弱教育室研究員)

北海道立特別支援教育センター肢体不自由・病弱教育室研究員 高 島 啓 充

北海道立特別支援教育センター肢体不自由・病弱教育室研究員 千 葉 秀 輝

「各教科等の指導と自立活動の指導を関連させた授業づくり」

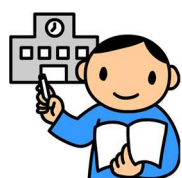
【研修で学べること】

○ 自立活動の指導と各教科等の指導の関連を踏まえた実態把握の方法

研修シートⅠ：自立活動の指導目標及び指導内容を改善するための視点
研修シートⅡ：肢体不自由のある児童生徒の学習特性に基づいた実態把握の観点

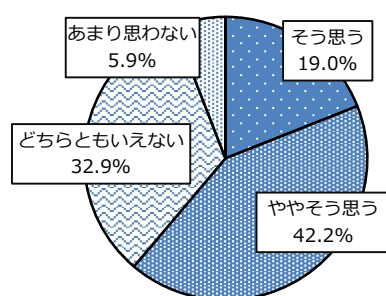
【研修の背景】

○ 自立活動の指導上の課題について先生方からの声



＜アンケート＞

問：「各教科等の指導と自立活動の指導と関係が不明確」なことが課題である



H30 自立活動研修講座受講者（70 名）対象

＜意見＞

- ◇「教科の目標を設定する際に、教科の指導に関わる困難なのか、自立活動の指導に関わる困難なのか、区別することが難しい。」
- ◇「自立活動の時間における指導内容と学習上の課題をどのように結び付けて、指導すればいいのか、分からない。」
- ◇「肢体不自由のある児童生徒の学習特性が、イメージできない。」

H30 研究協力校への聞き取り

- ・ 肢体不自由教育を担当する先生が、実態把握から具体的な指導内容を設定するための思考の組み立てができるよう研修シートⅠ、Ⅱを作成しました。
- ・ 研修シートⅠにおいて、収集した情報を整理する際、学習上の困難を明らかにすることができるよう研修シートⅡを作成しました。
- ・ 研修シートⅠ、Ⅱを合わせて使用することにより、各教科等の指導と自立活動の指導の関連を明らかにすることができ、学習効果を一層高めることができます。

【学習指導要領上のポイント】



- ・ 学校の教育活動全体を通じて行う自立活動の指導については、**自立活動の時間における指導と各教科等の指導との密接な関連を保つことが必要である。** <引用> 自立活動編 P18
- ・ 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動には**それぞれ独自の目標があるので、各教科等における自立活動の指導に当たっては、それらの目標の達成を著しく損なったり、目標から逸脱したりすることのないよう留意しながら、自立活動の具体的な指導内容との関連を図るよう工夫するなど、計画的、組織的に指導が行われるようにする必要がある。**

<引用> 自立活動編 P120

授業づくりシートⅠ「肢体不自由のある児童生徒の学習特性に基づいた実態

北海道立特別支援教育センター

手順④ 教科名の記入

参考文献：特別支援学校教育要領・学習指導要領（2018）文部科学省
飯野順子（2009）肢体不自由教育 No.188

教科名	
-----	--

手順⑤ 教科における児童生徒の発達の段階

児童生徒の（ ）の学習状況（何学年相当か）	具体的な学習状況
<input type="checkbox"/> 当該学年の各教科の目標 <input type="checkbox"/> 当該学年より前の各学年の各教科の目標 <input type="checkbox"/> 当該学部より前の学部の目標及びねらい	・

手順⑥ 教科における児童生徒の学習上の困難 → 手順⑦ 項目 → 手順⑧ 背景にある学習特性の検討

児童生徒の（ ）の障がいによる学習上の困難	自立活動	肢体不自由教育における学習特性の観点
・	6 区分	生活経験の不足
		表出・表現の困難
		学習レディネス形成
	27 項目	感覚・知覚の発達
		姿勢づくり（ポジショニング）
		呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ
		肯定的な自己像の形成
・	6 区分	生活経験の不足
		表出・表現の困難
		学習レディネス形成
	27 項目	感覚・知覚の発達
		姿勢づくり（ポジショニング）
		呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ
		肯定的な自己像の形成
・	6 区分	生活経験の不足
		表出・表現の困難
		学習レディネス形成
	27 項目	感覚・知覚の発達
		姿勢づくり（ポジショニング）
		呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ
		肯定的な自己像の形成
・	6 区分	生活経験の不足
		表出・表現の困難
		学習レディネス形成
	27 項目	感覚・知覚の発達
		姿勢づくり（ポジショニング）
		呼吸機能、摂食機能の障がい等の医療的なニーズ
		肯定的な自己像の形成

手順⑨ 中心課題となる学習特性 ※手順⑧でチェックした■が多かった学習特性

授業づくりシートⅡ「自立活動の指導目標及び指導内容を改善するための視点」

北海道立特別支援教育センター

学部・学年	手順①	
障がいの種類・程度や状態等		
事例の概要		

実態把握	① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られるよさや課題等について情報収集					
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
指導すべき課題の整理	②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難やこれまでの学習状況の視点から整理する段階					
	研修シートⅠ					
	②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階					
	③ ①を基に②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階						

<研修シートⅡから>

手順⑩

上記の課題と他の課題との関連を考える
 ・この課題は他の課題と多く結び付いている？
 ・この課題は複数の課題の原因となっている？
 ・この課題が解決すれば、他の複数の課題の改善が期待できそう？

手順⑪

<改善案>

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

今、指導すべき指導目標	手順②
-------------	-----

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

手順⑫

<改善案>

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	手順③
-------------------------	-----